

2019年度 授業計画作成ガイドライン

このガイドラインでは、本校で開講されるすべての授業について、講義要項(シラバス)に記載することが望ましい項目及びその記載方法について示します。

なお、講義要項(シラバス)は、基本的に全学科で共通のシートを使用し、学生へ授業開始前に配布いたします。

1 シラバスの項目一覧

(1)科目基本情報

① 年度 ② 時期 ③ 学科 ④ 科目名 ⑤ 講義時間 ⑥ 講義曜日 ⑦ 講義回数 ⑧ 講師名

⑨ 単位時間数 ⑩ 単位数

(2)講義目標(一般目標と到達目標)

[一般目標] 講義の位置づけを考えた教育方針や目的など学生が知識を将来どのように使用していくか意欲的に学べるように配慮する。

[到達目標] 学生が達成可能な現実的な形で具体的な行動目標を記入します。

(3)各回の講義内容

(4)講義方法

(5)講義で使用する機器・教材

(6)履修上の注意事項

(7)成績評価方法

(8)教科書・参考書

(9)予習復習のアドバイス

(10)その他

2 各項目の記載内容と方法、留意点

学生が各科目を学習しやすいように、達成する目標が明確であり、客観的に達成できているという実感が伴うように、シラバスの作成を心がけ、工夫をします。

3 講義要項(シラバス)シート

年度			時期		
学科			学年		
科目名			講義時間		
			講義曜日		講義回数
講師名			単位時間数		単位数
回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1			11		
2			12		
3			13		
4			14		
5			15		
6			16		
7			17		
8			18		
9			19		
10			20		
講義方法					
講義で使用する機器・機材					
履修上の注意事項					
成績評価方法					
教科書					
参考書					
予習復習のアドバイス					

4 以下には、各科の授業計画概要の一覧を掲載しております。

2019年度 各科 授業計画概要

商業実務専門課程 医療秘書科 医療秘書コース																							
分類			授業科目名	授業科目の一般目標・到達目標と内容 (概要)	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	講 義 回 数	授業方法				場所			教員			成績評価方法				企業等との連携
必修	選択必修	自由選択							講義	演習 (グループ演習)	実験・実習・実技	複数教員同時指導	オムニバス形式	校内	校外	専任	兼任	実務経験の有無	期末試験	実技試験	レポート・課題	小テスト	
○			コミュニケーションスキルⅠ	社会人としてのルールや医療従事者として心構えを学ぶ。	1・通	60	2	40	○	△				○	○	○	○			○	○		
○			コミュニケーションスキルⅡ	エントリーシート作成や履歴書の作成にあたり自己分析を実施。併せて面接練習を行う。	2・前	60	2	40	○	△				○	○	○	○			○	○		
○			ビジネスソフトⅠ	パソコンを日常業務の道具として駆使できることを目標とする。文書処理、表計算の一般的な操作を学ぶ。	1・通	120	4	80	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			ビジネスソフトⅡ	プレゼンテーションの手法を理解し、資料の作成方法と発表技術を習得することを目的とする。プレゼンテーション構成(立案、資料作成、発表)を学ぶ。	2・前	60	2	40	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			ビジネス作法	所作とは何かを理解することを目的とする。接客マナーを理解し、所作を学ぶ。	1 後 2 前	60	2	40	△	○				○	○	○	○			○	○		○
○			介護概論	介護とは何かを学ぶ。	1・後	30	1	20	○	△				○	○	○	○						
○			介護技術	福祉用具の名称と使用方法の学び、介護場面における介護、介助方法を身につける。	2・前	30	1	20	△	○				○	○	○	○						
○			基礎医学	医学知識の基本を学習し、理解する。	1・通	90	3	60	○					○	○	○	○			○	○		
○			薬学一般	治療薬の分類、人体に対する作用および効果のあらわれ方を学ぶ。	1・通	60	2	40	○					○	○	○	○			○	○		
○			カルテ管理	カルテの現物管理、カルテの情報管理を学ぶ。	1・前	30	1	20	○					○	○	○	○			○	○		
○			医事ソフトⅠ	会計ソフトの役割を理解し、その操作を学ぶ。	1・通	120	4	80	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			医療事務Ⅰ	診療報酬点数を理解し、会計計算ができるようになることを目的とする。診療報酬明細書(レセプト)を学ぶ。	1・前	90	3	60	○	△				○	○	○	○			○	○		
○			医療法規Ⅰ	医療事務技能審査試験を目標とし、医療保障制度など保険業務に関連している法律等を学習し、医療事務としての理念を学ぶ。	1・通	60	2	40	○					○	○	○	○			○	○		
○			医療事務演習Ⅰ	医療事務技能審査試験を目標とし、レセプト点検、作成を行う。	1・後	120	4	80	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			臨床医学Ⅰ	病院職員として必要な臨床医学の知識を習得し、実務に活かせるようにする。	2・前	30	1	20	○					○	○	○	○			○	○		
○			DPC演習	DPC(診断群分類)による入院料の包括支払制度を学ぶ。	2・前	60	2	40	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			公費負担	医療事務管理技能認定試験を目指し、制度のあらまし、内容、給付の申請手続き、医療保険との関係等学び、レセプト作成演習をおこなう。	2・前	60	2	40	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			医療事務Ⅱ	診療報酬点数を理解し、会計計算ができるようになる。レセプト点検ができるようになる。	2・前	60	2	40	△	○				○	○	○	○			○	○		
○			医事ソフトⅡ	医療会計システム・調剤会計システム・介護会計システムの習得。医療・福祉の現場で即戦力となる技術を身につける。	2・前	60	2	40	△	○				○	○	○	○			○	○		

○	教育学	教育学と教育社会学の知見を通じて、人間にとっての教育の意義を考えます。さらに、私たちが暮らす地域社会において、教育が果たす役割を検討します。それによって、私たちは誰もが学習者であり、教育者であることを明らかにします。	1年・通	30	2	20	○													
○	社会福祉学	科学的・理論的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培うことを目指し生命倫理、人の尊厳を幅広く理解できるようになること。	1年・前	30	2	20	○	△												
○	情報処理学	・パソコンを利用し、日常業務の問題解決の手法を取得する。 ・パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。	1年・後	30	2	20	△	○												
○	工学	力学の基礎を通じて科学的・理論的思考力を身につけ、理論から実際の物作りへの応用力を養うことを目標とする。	1年・通	30	2	20	○	△												
○	英語	医学英語を良く理解し、医学英語に慣れ親しむことを目標とする。医学英語の独特な文法やその使い方を学習する。	1年・通	30	2	20	○	△												
○	医学英語	臨床現場で使用される医療に関する英語(英単語)略語を理解して、カルテ等の資料を読み取ることができ、対象者の情報を記すことができる。	1年・後	30	2	20	○	△												
○	保健体育Ⅰ	個人および社会生活に対する健康・運動・安全の知識を深め、運動の合理的な実践や健康維持増進のための能力や資質を高めることで、自分自身の健康管理のみならず医療関係者として、協力・支援ができる力を育むことを目的とする。	1年・前	30	1	20	○	△												
○	保健体育Ⅱ	個人および社会生活に対する健康・運動・安全の知識を深め、運動の合理的な実践や健康維持増進のための能力や資質を高めることで、自分自身の健康管理のみならず医療関係者として、協力・支援ができる力を育むことを目的とする。	1年・後	30	1	20	○	△												
○	解剖学Ⅰ	すべての臨床科目の基礎になる解剖学のなかで内臓系と運動器系(骨、関節、筋)についての基本的な解剖学的構造、名称、機能について理解すること(なお筋学各論の一部は後期の体表解剖実習時間内を行う)	1年・前	30	2	20	○	△												
○	解剖学Ⅱ	人体における細胞・組織・器官(脈管・神経・感覚器)の構造と機能について理解できる。	1年・後	30	2	20	○													
○	体表解剖学実習	解剖学の講義内容をふまえて、模型を用いたスケッチ等によって、人体の構造の詳細を立体的に理解する	1年・前	45	1	30	○	△												
○	生理学	身体の生理学的事象を理解する。	1年・通	60	4	40	○													
○	生理学実習	1年生での生理学の講義の内容をふまえて、実際に実習で生体反応等を見ることによって、生理学的な理解を深めることを目標とする	2年・通	45	1	30	△	○												
○	運動学	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する。	1年・通	60	4	40	○													
○	運動学実習	運動学で修得した知識をもとに、体表からの視診・触診を通じて、正常な関節構成体の構造と機能を確認し、さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することができる。	2年・通	45	1	30	△	○												
○	人間発達学	胎生期から老年期まで各ライフステージにて生涯どのような成熟をしていくのか発達過程を理解し、その中で影響要因と個性があることを知る。患者ひとり一人の背景や特性を理解した治療を行えるための基本的な発達段階とその特性を理解する。	1年・前	30	2	20	○													
○	一般臨床医学	各疾患やその病態生理に関心を持ち、診断・治療の最低限の知識を想起できる。また、知識のみならず倫理観を持ち、病態に偏らない全人的な医療を行う姿勢を持ち、自らの健康管理に努め、模範となる。	1年・通	30	2	20	○													
○	内科学	近年の超高齢社会において、リハビリテーション医療における対象疾患も高齢者の抱える内科疾患を理解し、診療に当たらねばならない。そのため、各疾患像を正しく理解し、臨床診療における対象者からの訴えに傾聴でき、医師と連携がスムーズに行えるような専門職となることを目標とする。	2年・通	30	2	20	○													
○	整形外科学	1.運動器の知識が理解できる。 2.運動器疾患におけるADL障害を理解できる。 3.最新の手術法や治療法について理解できる。	2年・通	30	2	20	○													
○	神経内科学	リハビリテーション医療において主な対象者である中枢神経疾患をはじめとする。神経疾患の症状とその治療を理解し、適切なリハビリテーション医療を提供できるようになる。	2年・通	30	2	20	○													
○	小児科学	小児疼痛性疾患や極出生体重の事例など心肺機能未熟な状態のケースへの関わりも増え、よりハイリスクな事例も増えてきている。小児疾患の事例に関わる際には、常に発達ということを意識して臨まねばならず、家族への支援も視野にいたれた小児疾患の特徴を理解する。	2年・通	30	2	20	○													
○	精神医学	精神医学の学習を通じて、人の心身の健康状態のあり方を認識でき、また精神疾患の症状に対する治療について正しく理解して、理学療法士としてリハビリテーションを行う際に系統たてて理解する。	2年・前	30	2	20	○													

